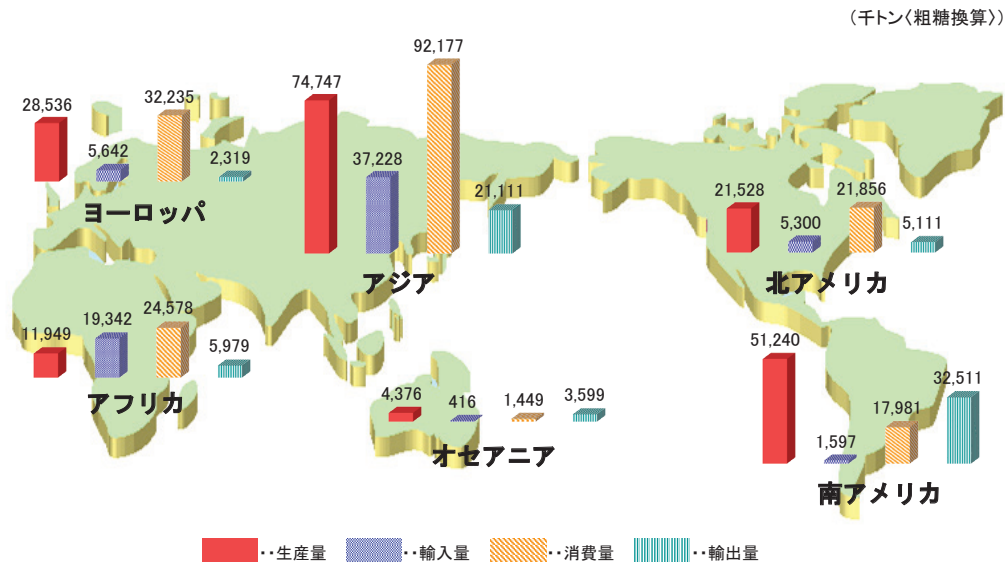


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之、高田 勇一

1. 世界の砂糖需給（2023年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	66,162	180,872	68,130	81,041	44.8
2018/19	81,041	186,654	61,286	182,967	61,421	84,592	46.2
2019/20	84,592	181,553	69,368	182,214	71,612	81,688	44.8
2020/21	81,688	181,818	66,765	184,713	68,028	77,530	42.0
2021/22	77,530	186,459	69,171	187,844	70,552	74,764	39.8
2022/23 (2022年12月予測)	74,019	195,124	67,679	186,824	72,322	77,676	41.6
2022/23 (2023年3月予測)	74,764	192,376	69,524	190,278	70,630	75,756	39.8

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2023年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2023年4月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002896.html

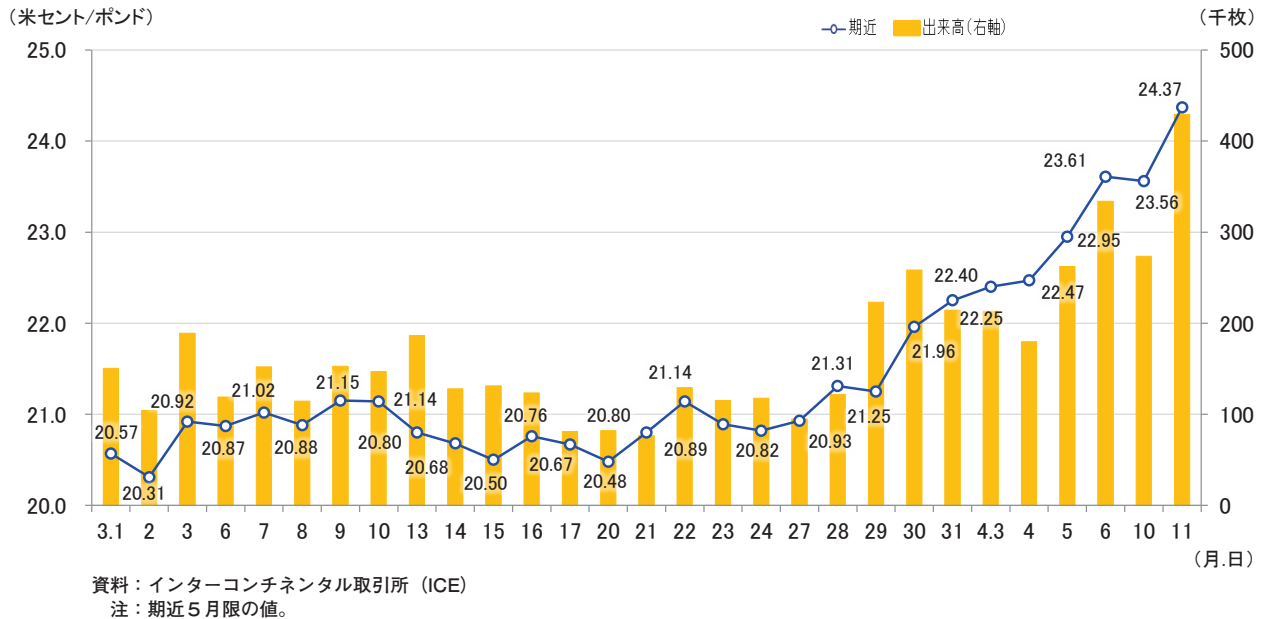
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002897.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (3/1 ~ 4/11)

～世界の砂糖供給不足の懸念から、11年ぶりに24セント台を突破～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



2023年3月のニューヨーク粗糖先物相場（5月^{がつ}限）の推移を見ると、1日は、2月末に国際砂糖機関（ISO）が2022/23年度の砂糖生産量と余剰在庫量を下方修正し、世界的な供給ひっ迫の懸念が生じたことで、1ポンド当たり20.57セント（注1）と高値を付けた。2日は、ドル高（注2）により、同20.31セントまで値を落とすも、3日は、原油高（注3）により、同20.92セントと上昇した。6日は、インドで減産が見通される中、同国政府が22/23年度の砂糖生産量が3360万トンに達した場合には、輸出枠を100万トン追加で許可する可能性があることを発表したことから、同20.87セントと下落した。7日以降は、インドの減産のほかブラジルでは増産の見通しなどからもみあいとなったものの、9日は、米国海洋大気庁が今年後半にエルニーニョ現象が約6割の確率で発生することを発表したことから、同21.15セントと上昇した。エルニーニョ現象はブラ

ジルでの大雨やインドでの干ばつなどを引き起こす可能性があり、サトウキビ生産量への世界的な被害が懸念される。13日以降は、原油安やレアル安により値を下げ、15日は、同20.50セントを付けたものの、16日は反発し、同20.76セントと上昇した。17日以降は、原油安などにより値を下げ、不落傾向で推移したものの、インド製糖協会（ISMA）が22/23年度の10月から翌3月中旬の同国砂糖生産量を前年度比1.1%減と予測したことや、米国大手金融機関がインドでの減産を要因に同年度の世界の砂糖余剰在庫量予測を500万トンから250万トンに引き下げたことなどから、21日は、同20.80セントと上昇し、22日は、同21.14セントと続伸した。23日以降は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が22/23年度の10月から翌3月中旬の同国砂糖生産量を前年度比4.7%増と予測したことなどから下落したが、27日は、米国大手情報配信

企業が同年度の世界砂糖余剰量予測を昨年11月予測の500万トンから60万トンに引き下げたことから上昇し、28日は、同21.31セントを付けた。29日は、原油安により値を下げたものの、30日は、引き続き世界的な供給不足への懸念が広がり、同21.96セントと高騰し、31日は、原油高とリアル高が後押しし、同22.25セントと22セント台に突入した。

4月に入ると、3日は、原油高も相まって引き続き上昇し、同22.40セントと6年半ぶりの高値を記録した。4日以降も上昇は続き、5日は、ISMAが22/23年度の10月から翌3月中旬のインドの砂糖生産量を前年度比3.3%減と下方修正したことから、同22.95セントと急騰し、6日は、インド政府が砂糖生産量の減少見通しを理由に追加輸出を承認する可能性が低いと発言したことが引き金となり、同23.61セントとさらに価格を押し上げる結果となった。10日は、ドル高によりロングポジションの

ものが売られたことから、同23.56セントと値を下げたものの、11日は、再び上昇し、同24.37セントと11年ぶりの高値を記録した。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2023年4月時点予測)

ブラジル

2023/24年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：852万ha (前年度比0.1%増)
生産量：6億4950万トン (同7.1%増)

【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量：4319万トン (同8.6%増)
輸出量：3264万トン (同11.7%増)

2023/24年度の砂糖生産量はかなりの程度、輸出量はかなり大きく増加する見込み

2023/24年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、大豆やトウモロコシなどの競合作物の作付増加の影響を受ける一方、世界的な砂糖価格の高騰や供給不足の懸念により増産意欲が高まったことで相殺し、852万ヘクタール (前年度比0.1%増) と横ばいで推移すると見込まれる (表2)。サトウキビ生産量は、ラニーニャ現象が終息したことや、

主産地の中南部地域が降雨に恵まれサトウキビの生育に良好な条件が続いたことなどから6億4950万トン (同7.1%増) とかなりの程度増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、中南部地域の良好な気候に加え、雨季が始まる前に予想よりも多くのサトウキビが収穫されたこと、また、砂糖価格の上昇などを背景とした増産機運の高まりから、4319万トン (同8.6%増) とかなりの程度増加すると見込まれる。輸出量

は、インドの輸出量が予想を下回ったことなどを背景に3264万トン（同11.7%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。他方でブラジルでは、トウモロコシと大豆の記録的な収穫増と価格高騰によ

り、サントス港をはじめとした主要港では物流のひっ迫感が高まっている。この影響を受けてブラジルの砂糖輸出が遅滞した場合、砂糖価格の上昇につながる可能性もあると予測されている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,508	8,517	0.1%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,500	649,500	7.1%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,780	43,190	8.6%
	輸入量	6	4	2	3	50.0%
	消費量	10,916	10,718	10,557	10,715	1.5%
	輸出量	34,042	27,088	29,219	32,635	11.7%
	期末在庫量	3,468	3,286	3,293	3,135	▲4.8%
	期末在庫率	7.7	8.7	8.3	7.2	1.0ポイント減

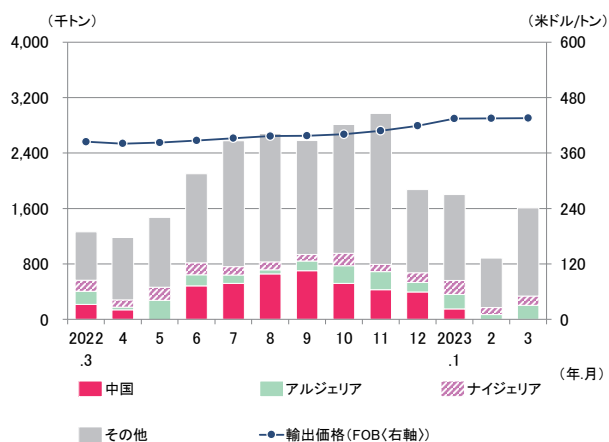
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

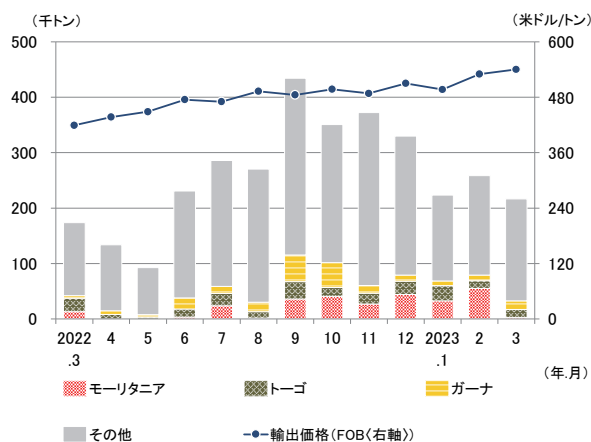
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

インド

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：557万ha（前年度比5.4%増）
生産量：4億5474万トン（同3.6%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：3554万トン（同7.8%減）
輸出量：774万トン（同37.9%減）

2022/23年度の砂糖生産量はかなりの程度、 輸出量は大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、主産地であるウッタル・プラデーシュ州やタミルナードゥ州における作付面積の拡大などから、557万ヘクタール（前年度比5.4%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。サトウキビ生産量は、ウッタル・プラデーシュ州では増産が見込まれているものの、マハラシュトラ州やカルナータカ州では降水量の偏りや雨期後半に続いた曇天に伴う日照時間の短さなどが影響し、4億5474万トン（同3.6%減）とやや減少すると見込まれる。

一方で、砂糖生産量は、曇天が続いたことによりサトウキビの出穂が早まりCCS^{（注1）}が低下したこ

とや、同国におけるエタノールの増産などから、3554万トン（同7.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は、減産見込みに加え、同国政府が昨年11月上旬に発表した22/23年度の砂糖輸出枠600万トンに追加枠を承認する可能性が低い^{（注2）}ことから、774万トン（同37.9%減）と大幅な減少が予想される。

（注1）可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

（注2）現地報道によると輸出枠の600万トンのうち約400万トンがすでに輸出され、政府関係者は砂糖の減産見通しから、追加輸出を承認する可能性は低いとしている。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

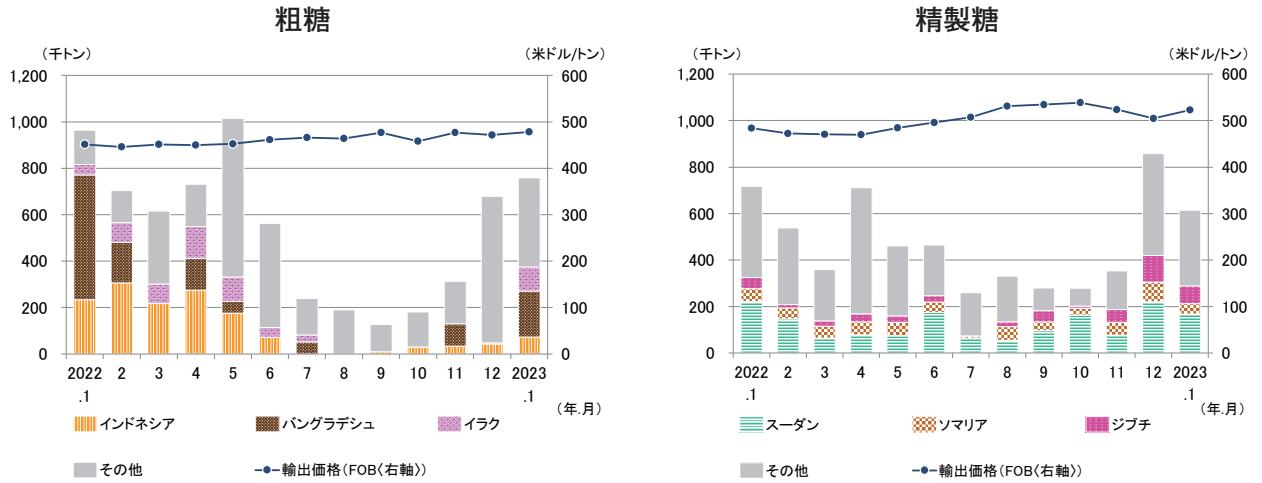
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (3月予測)	2022/23 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,534	4,849	5,280	5,565	5,565	5.4%	
サトウキビ生産量	371,430	410,545	471,878	464,264	454,735	▲ 3.6%	
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,559	36,434	35,539	▲ 7.8%
	輸入量	1,686	1,037	428	655	655	53.2%
	消費量	27,324	28,679	29,376	29,916	29,916	1.8%
	輸出量	8,254	8,538	12,468	7,742	7,742	▲ 37.9%
	期末在庫量	10,509	7,971	5,113	4,545	3,650	▲ 28.6%
期末在庫率	29.5	21.4	12.2	12.1	9.7	2.5ポイント減	

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



中国

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：113万ha（前年度比1.0%増）
 生産量：6603万トン（同8.5%減）

【てん菜】

収穫面積：15万ha（同1.2%増）
 生産量：852万トン（同20.5%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：987万トン（同4.5%減）
 輸入量：690万トン（同0.7%減）

2022/23年度の砂糖生産量は1000万トンを下回る見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、113万ヘクタール（前年度比1.0%増）とわずかに増加すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区で7月から11月の間で続いた干ばつの影響により、6603万トン（同8.5%減）と、7000万トンを割ると予想される。中国気象局によると、広西チワン族自治区では2月から再び干ばつに見舞われているとした報告もあり、春植えの生育への影響も懸念される。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシ価格の高騰を背景に政府が昨年3月に穀物の増産を呼びかけたことを受け、他作物への転作がみられた中で15万ヘクタール（同1.2%増）とわずかに増

加すると見込まれる。てん菜生産量は、順調な生育により852万トン（同20.5%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産予測から987万トン（同4.5%減）とやや減少し、1000万トンを下回ると見込まれる。輸入量は、これまで国内生産の不足分を上回る量が輸入され国内在庫が積み増したことから減少見通しが続いたが、国内での砂糖減産予測や世界的な砂糖供給のひっ迫懸念を理由に、690万トン（同0.7%減）と前月から上方修正され、前年度からわずかに減少する見込みである。また、中国ではゼロコロナ政策の緩和から外食需要が急増し、家庭外での消費増加も見込まれているため、消費の回復が予想以上であれば、在庫を維持するために同国の輸入量は増加する可能性がある。

砂糖生産量が7年ぶりの低水準に落ち込むと予測

ロンドンを拠点に砂糖部門の市場分析と予測を行うCzarnikow社は3月31日、2022/23年度の中国の砂糖生産量について、サトウキビの減産を受けて15/16年度以来、7年ぶりの低水準に落ち込む可能性があることを発表した。また、同国内での砂糖の不足量（砂糖生産量と消費量の差）は最大で観測史上2番目となる650万トンが見込まれるとしている。

同社は当該予測の要因として、同国最大の砂糖生産地域である広西チワン族自治区において、サトウ

キビのCCSは高かったものの、サトウキビの減産を補うには至らなかったことを挙げている。また、2月11日から3月21日における同地域の降水量が史上最低となる平年比84.4%の減少となり、3月の春植えの時期に十分な水量を確保できなかったことも一因としている。

中国では、ゼロコロナ政策の緩和による景気の活性化を通じ、今後砂糖消費の回復が見込まれるものの、過去3年にわたる砂糖の大量輸入によって国内市場は潤沢な供給量が確保されている状況にあり、同社も22/23年度の砂糖輸入量の前年割れを見込んでいる。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

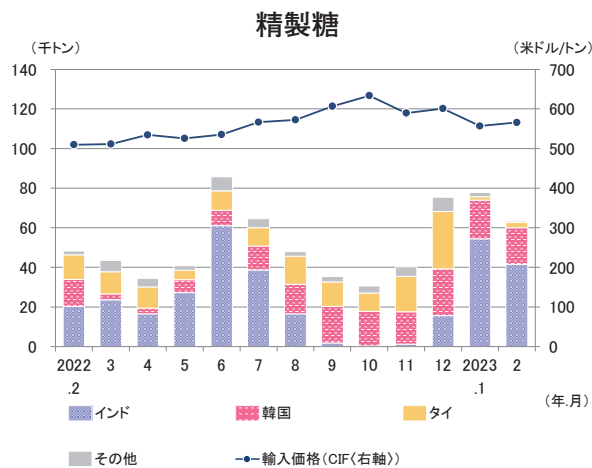
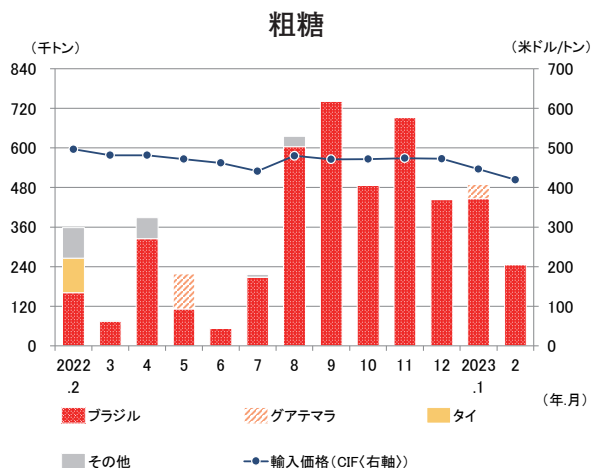
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (3月予測)	2022/23 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,119	1,133	1,131	1.0%	
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	68,527	66,025	▲ 8.5%	
てん菜収穫面積	213	231	144	146	146	1.2%	
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	7,990	8,519	20.5%	
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	10,190	9,869	▲ 4.5%
	輸入量	6,754	8,188	6,947	6,869	6,900	▲ 0.7%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,848	16,848	2.0%
	輸出量	192	132	169	173	178	5.9%
	期末在庫量	12,872	15,719	16,306	16,513	16,049	▲ 1.6%
	期末在庫率	78.0	93.2	97.7	97.0	94.3	3.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比3.9%減）

生産量：9918万トン（同11.0%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1569万トン（同8.8%減）

輸出量：101万トン（同23.4%減）

2022/23年度の輸出量は回復基調にあるものの、依然として大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響により、世界的な規模で深刻な食糧不足や価格高騰への懸念が広がる中、収益性が高く価格が高騰しているトウモロコシなどの穀物への転作が進んだことなどから、140万ヘクタール（前年度比3.9%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、昨夏の記録的な熱波や干ばつの影響のほか、肥料価格高騰による施肥の減少やEU域内でのネオニコチノイド系農薬の緊急的使用の禁止^(注)などから収量が平年を下回るものと予測され、9918万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、フランスなどでエタノールへの仕向量が減少したものの、てん菜の減産のほか、干ばつなどの影響を受けたてん菜が12月中旬の急激な冷え込みと霜により含糖量が一層低下したことや、一部のEU加盟国での収穫作業の低迷などから、1569万トン（同8.8%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸出量は、砂糖の減産などを背景に101万トン（同23.4%減）と前月予測から上方修正され100万トンを上回ったものの、依然として大幅に減少すると見込まれる。

(注) 詳細については2023年2月7日付け海外情報「ネオニコチノイド系農薬の緊急使用に否認の判決(EU)」https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003455.htmlを参照されたい。

バイオエタノール混合ガソリン「Super E10」の販売量が大幅に増加（ドイツ）

ドイツのバイオエタノール産業関連団体である(BDBe: Bundesverband der deutschen Bioethanolwirtschaft)は、ドイツにおける持続可能性認証を受けたバイオエタノールの生産と消費に関する2022年の市場データを発表した。本データによると同国内のバイオエタノール生産量は71万5479トン（前年比2.0%増）とわずかに増加し、バイオエタノール10%混合の「Super E10」の販売量は402万7987トン（同42.9%増）と大幅に増加した。

バイオエタノール生産の内訳を見ると、てん菜パルプ由来の生産量は7万2987トン（前年比39.8%減）と大幅に減少した一方で、トウモロコシなどの飼料穀物由来は64万2492トン（同10.8%増）とかなりの程度増加した。同国のバイオリファイナリー^(注1)全体では約79万トンのてん菜と約270万トンの飼料穀物が持続可能性認証を受けたバイオエタノールや飼料などの製品に加工され、生産過程では有機肥料やバイオガス、飲料用炭酸なども生産されている。

BDBeによると、数年来続いているバイオエタノール混合ガソリン「Super E10」の販売増加傾向は持続的であり、その勢いは近年加速しているとしている。これは「Super E10」と5%混合の「Super」の価格差が比較的小さい（全国平均で1リットル当たり5～6セント程度、7～9円程度^(注2)）ことに加え、混合ガソリンに対する消費者の理解醸成が進んだことや環境意識の高まりなどを要因に挙げている。

る。同国では、温室効果ガス（GHG）の主要排出分野である輸送部門での削減強化が進められており、燃料小売事業者に対し、販売する燃料に一定のバイオ燃料などを割り当てること義務付けられている。今後、その割当は2030年まで段階的に引き上げられる予定とされ、関係者の間では24年は前年の8.0%から9.25%に引き上げられると予想されている。

（注1）バイオマスを原料としてバイオ燃料などを生産する産業。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の3月末TTS相場（1ユーロ=147.22円）を使用。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (3月予測)	2022/23 (4月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,454	1,399	1,397	▲ 3.9%
てん菜生産量	110,102	98,517	111,395	98,136	99,180	▲ 11.0%
砂糖	生産量	16,971	15,123	17,207	15,537	▲ 8.8%
	輸入量	2,230	1,888	2,132	2,696	26.9%
	消費量	17,014	16,765	17,713	17,555	▲ 0.9%
	輸出量	1,436	1,262	1,312	984	▲ 23.4%
	期末在庫量	2,348	1,332	1,646	1,340	▲ 9.7%
期末在庫率	12.7	7.4	8.7	7.2	8.0	0.6ポイント減

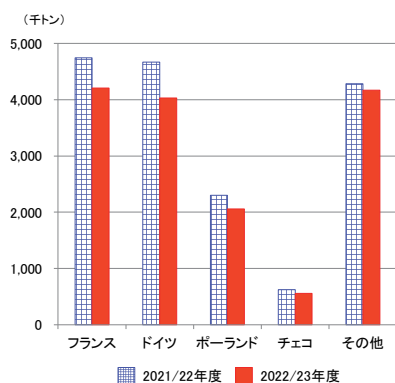
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し（2022/23年度）（2023年3月時点）

砂糖生産量

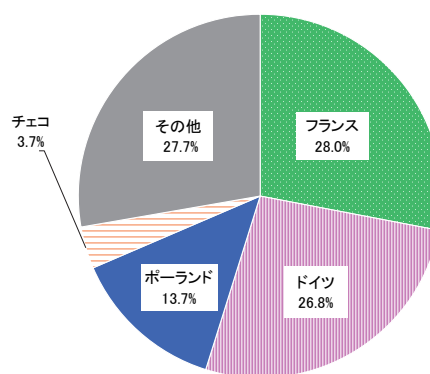


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度は予測値。

国別生産割合



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先の動向（2023年4月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国が大勢を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度比0.3%減）

生産量：3082万トン（同5.4%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：418万トン（同1.1%減）

輸出量：318万トン（同3.5%増）

2023/24年度の輸出量は、やや増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度比0.3%減）と横ばいで推移すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、クイーンズランド州南部などの地域で乾燥した天候が続き、通常の収穫時期に戻ることが予想されることから、3082万トン（同5.4%減）とやや減少すると予想される。

砂糖生産量は、CCSの回復が見込まれるものの、

クイーンズランド州とニューサウスウェールズ州北部では3月から5月の降水量が平年を下回ると予想されることから、418万トン（同1.1%減）とわずかに減少すると予想される。一方で輸出量は、世界的な経済回復の進行によりインドネシアや日本、韓国などの砂糖消費需要によってけん引されることが予想され、318万トン（同3.5%増）とやや増加が見込まれる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	354	342	342	341	▲ 0.3%	
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,589	30,816	▲ 5.4%	
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,222	4,176	▲ 1.1%
	輸入量	10	9	16	14	▲ 12.5%
	消費量	1,010	1,010	1,009	1,010	0.1%
	輸出量	3,376	3,521	3,077	3,184	3.5%
	期末在庫量	790	376	529	525	▲ 0.7%
	期末在庫率	18.0	8.3	12.9	12.5	0.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：167万ha（前年度比9.5%増）

生産量：9430万トン（同4.5%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1164万トン（同8.3%増）

輸出量：844万トン（同4.6%増）

2022/23年度の輸出量は前月予測から上方修正され、800万トン台半ばの見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、競合するキャッサバの生産に転換した農家の増加などから、前回予想から下方修正されたものの、前年が豊作で収穫が良好であったことなどから、167万ヘクタール（前年度比9.5%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、昨年は東北地域の低地帯で洪水が発生したものの、洪水被害に見舞われなかった他の地域で収量が増加し、前月予測に引き続き下方修正され1億トンを下回ったが、9430万トン（同4.5%増）と依然として高水準となることが予想される。

砂糖生産量は、今期のサトウキビ生産量が当初1億トンを超える見通しだったが下回り、また、製糖業者も操業を早く終えたことから、前回予測から下方修正されたものの、1164万トン（同8.3%増）とかなりの程度増加し、21/22年度に引き続き1000万トン超えが見込まれる。輸出量は、生産量が下方修正されたものの、844万トン（同4.6%増）と、前回予測から上方修正され、倍増した前年度からやや増加が見込まれる。

バイオプラスチック生産量で世界首位が視野に入る

2月24日付け現地報道によると、タイのバイオプラスチック産業団体（The Thai Bioplastics Industry Association）は、同国はバイオプラスチック製品に必要な原料が豊富にあることから、海

外の需要拡大に貢献していると述べている。

同団体の会長によると、同国のバイオプラスチック生産能力は現状、年間9万5000トンと世界第2位であるが、同国では現在、年間7万5000トンの増産計画があり、実現すれば世界第1位である米国の年間15万トンを上回る規模となる。また、同国ではバイオプラスチックの主要原料であるサトウキビやキャッサバが豊富にあり、バイオプラスチックの製造はタイの農産物の付加価値を高めるだけでなく、CO₂排出削減に寄与し、使い捨てプラスチックをめぐるさまざまな問題に対処するための一つの選択肢になると述べている。タイで生産されるバイオプラスチック製品の9割は輸出されており、今後の増産により、海外での旺盛な需要に応えることが可能となる見込みである。

同会長は、タイはASEANのバイオプラスチック製造・販売のリーダーとなることを目指しており、その目標はバイオ経済^(注)の発展にも合致すると述べている。さらに、環境に影響を及ぼさない技術の導入を通じ、環境に優しいプラスチックを製造することは、同国のプラスチック産業にとって望ましいものであり、他の川下産業を支える重要な役割も担っていると述べた。

(注) 再生可能な資源を原料として、エネルギーや食料、その他の付加価値の高い製品を生産することを指し、同国の国家的課題であるBCG経済モデルの一部となっている。このBCG経済モデルは、同国の経済施策の一つで、「バイオ（Bio）経済」「循環（Circular）経済」および「グリーン（Green）経済」

の概念を統合したもの。生物資源の活用、資源の再利用とリサイクル、社会経済と環境のバランスによる持続可能な開発などを主眼としている。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

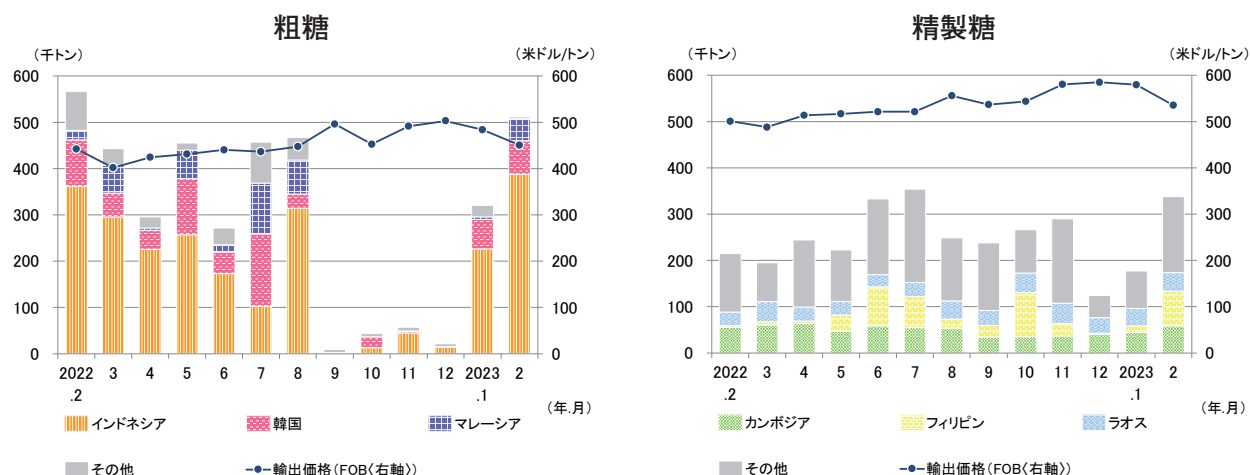
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (3月予測)	2022/23 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,714	1,495	1,525	1,707	1,671	9.5%	
サトウキビ生産量	74,893	66,659	90,210	98,000	94,300	4.5%	
砂糖	生産量	8,801	7,981	10,749	11,885	11,644	8.3%
	輸入量	66	111	149	100	100	▲ 33.1%
	消費量	3,773	3,592	3,374	3,616	3,294	▲ 2.4%
	輸出量	8,461	3,981	8,069	8,375	8,444	4.6%
	期末在庫量	4,532	5,050	4,506	4,160	4,512	0.1%
	期末在庫率	37.0	66.7	39.4	34.7	38.4	0.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。